次代を担う茶業経営体の育成
～茶侵入害虫「チャトゲコナジラミ対策」を通じた産地育成～

所属名　：北薩地域振興局さつま町駐在
発表者名：折田　高晃

＜活動事例の要旨＞

さつま町では，平成26年６月に「チャトゲコナジラミ」（以下「チャトゲ」と表記）の発生が確認され（県内では３例目），その後急激に増殖し，夏にはすす病を発生した。翌年度には更に広範囲に激発し，すす病が拡大した。当時，農家の著しいモチベーション低下がみられた。

平成27年度から対策の取り組みを開始し，適切な防除時期と防除方法の検討や，有望な天敵「シルベストリコバチ」（以下「天敵」と表記）の導入対策を実施した（平成27年～28年度）。

天敵の導入対策を実施した結果，速やかに天敵が定着したことで激発茶園が減り，「低密度収束・安定期」に入った（平成28～29年度）。チャトゲ対策が進み，発生密度が低下するにつれ，生産意欲が向上し，経営改善につながってきた。

また，これらの結果を県域の会議等で広く紹介し，県内他産地において，同様な取り組みの波及が進みつつある。

１　計画された活動の課題・目標と策定過程

(1)　課題・目標と設定理由，及び活動の内容と方法

さつま町において平成26年にチャトゲが確認された（県内3例目）。地域の中心的な茶団地内での大発生であり,抜根・焼却による根絶は困難であることから，密度低下対策が必要と判断された。平成27年度には，更に広範囲に拡大・激発し，すす病を発生した。

当時，茶価が低迷する中でのチャトゲの侵入であり，茶の生産意欲が著しく低下していたことから，解決すべき喫緊の課題として，平成27年度からチャトゲ対策を普及計画に位置づけ（平成28年度からは調査・研究活動），総合的な対策を講じて，被害を最小限に抑えながら，速やかに密度低下を図ることとした。

【課題・目標の策定過程】

ア　現状把握（侵入警戒調査による侵入確認及び分布の把握）
イ　関係機関との協議（技連会による対策検討）
ウ　普及計画への位置づけ（平成27年度～）
エ　計画策定（防除対策，天敵導入対策）
オ　調査研究への位置づけ（平成28年度～）

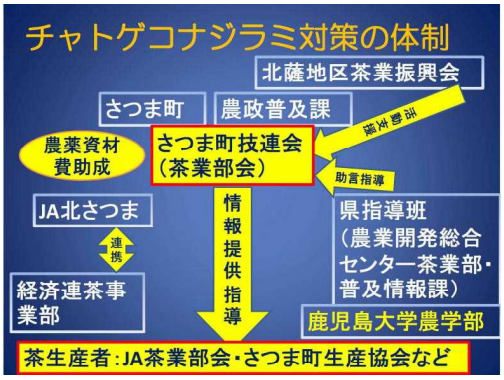
２　普及活動の内容

(1)　活動の経過

ア　侵入警戒調査による侵入分布の把握
イ　年間発生消長の把握による防除時期の検討・指導の実施
ウ　防除方法の検討を行い防除効果の確認
エ　天敵導入対策を実施（平成27～28年定着促進，平成29年～拡散促進）。
オ　天敵の定着と拡散の確認（平成28年度～）。
カ　低密度収束・安定期への移行確認（平成29年度）
キ　他地域への波及と成果の公表（平成29年度～）
ク　低密度収束・安定期以降のチャトゲ発生状況の把握（平成30年度～）

(2)　指導・支援の体制

さつま町茶技連会が中心となることで細やかに対応を協議することができた。また，県指導班及び鹿児島大学からの助言指導を受け，鹿児島県茶生産協会及び北薩地域茶業振興会と連携（トラップ資材，天敵導入対策資材の提供）して農家への指導・支援を実施した。



3　普及活動の成果

(1)　課題及び目標の達成状況とその要因

ア　現状把握（侵入警戒調査による侵入分布の把握）を行い，チャトゲ侵入後翌年には，さつま町内全域での発生と激発茶園でのすす病の発生を確認した。

イ　年間発生消長の把握による防除時期の検討を行い，年間４回の防除適期を把握し，農家への適期防除指導を実施した。

ウ　M 社製の専用防除機を用いて，防除方法の検討を行い高い防除効果が確認されたため，活用の指導を行い，専用機レンタルのしくみを整えた（平成28年度）。

エ　平成27年度から天敵導入対策を実施し，平成28年度には天敵の定着が確認された。また，平成28年度からは茶農家へ天敵対策の方法が理解が深まり，「チャトゲコナジラミ発生茶園への天敵導入マニュアル」を作成・配布したところ，茶農家自ら天敵拡散のための鉢植えの茶を準備するなど，取り組みが一層進んだ。

オ　簡易な天敵定着確認法を考案し，平成29年度に天敵の定着状況を調査したところ，さつま町の広範囲にわたり，天敵の拡散・定着が確認された。

カ　最初に天敵導入対策を講じた茶団地において，平成28年度から発生密度が低下し，平成29年度には更に低下した。このため低密度収束・安定期に入ったと判断された。

キ　さつま町内で天敵が定着したことから，町内の茶園で増殖した天敵を他地域で定着させる対策が始まり，姶良地区，薩摩川内市，枕崎市，出水市で取り組まれた。

ク　天敵定着後も，チャトゲ密度は一定のレベルで増減を繰り返すことや，増減の傾向は茶園によって異なること，また有機栽培茶園においては，比較的少なく推移し，増減の幅が小さいこと等が明らかとなり，今後の防除対策の検討につながった。

(2)　活動に対する生産者・農家の評価

ア　茶価の低迷する中でのチャトゲ侵入であり，茶の生産意欲やモチベーションの低下がみられたが，各種対策を講じる中で，自ら天敵拡散対策に取り組むなど意識の変化がみられ，発生密度が低下することで，生産意欲の向上が感じられる。

イ　薬剤防除ができない有機栽培茶園において，天敵の定着とともにチャトゲが安定した密度で推移しており，有機栽培生産者から高く評価されている。

(3)　地域農業振興への貢献

ア　天敵が速やかに定着・拡散したことで，地域での薬剤防除コストが軽減された。

イ　チャトゲコナジラミ対策をはじめ，様々な取り組みを行った結果，農家の販売額増加につながった。

ウ　さつま町で増殖された天敵が，広く県内（薩摩川内市，枕崎市，霧島市，出水市など）へ拡散され，県域での天敵対策が進んだ。

4　今後の普及活動に向けて

(1)　今後の課題

選択性の高い農薬などを活用した天敵に優しいチャトゲ防除対策の確立を行う

(2)　今後の活用に向けて

成果を広く公表し，広域での対策に役立てていきたい。